

平成18年(第7回) 12月議会定例会



今議会で可決された議案等の概要 (紙面の都合で内容は一部省略してあります)

平成18年度 一般会計補正予算

既定予算の総額に2200万円を追加し、歳入歳出予算の総額を36億5901万5000円としました。

歳出の主なものは、総務費・人件費649万5000円、給与システム導入電算委託費150万円、民生費・児童知的障害者知的障害者居宅生活支援費117万4000円、知的障害者施設訓練等支援費314万8000円、国保事業勘定繰入金1161万8000円、介護保険特別会計繰入金537万5000円、乳幼児医療費109万5000円、衛生費・塵芥処理燃料費235万9000円、簡易水道特別会計繰入金△187万8000円、農林水産業費・家畜導入事業資金供給事業返還金801万3000円、高齢者等肉用雌牛貸付基金元金553

平成18年度 国民健康保険特別会計 補正予算

既定予算の総額に4141万4000円を追加し、歳入歳出予算の総額を8億3874万5000円としました。

歳出の主なものは、保険事業勘定の既定予算に4141万4000円を追加し、歳入歳出予算の総額を9789万2000円としました。

平成18年度 診療所特別会計 補正予算

既定予算に3万3000円を追加し、歳入歳出予算の総額を9789万2000円としました。

平成18年度 簡易水道事業特別会計 補正予算

既定予算に115万8000円を追加し、歳入歳出予算の総額を9968万3000円としました。

歳出の主なものは、医科・歯科費の医薬品衛生材料費等、その財源として医科診療収入、繰越金を充当しています。

既定予算から341万7000円を減額し、歳入歳出予算の総額を1億7093万8000円としました。歳出の主なものは、需用費と委託料の減です。

平成18年度 農業集落排水事業 特別会計補正予算

既定予算から6000円を減額し、歳入歳出予算の総額を7819万7000円としました。

平成18年度 介護保険特別会計 補正予算

既定予算に537万5000円を追加し、歳入歳出予算の総額を4億8422万4000円としました。歳出の主なものは、包括支援事業委託料等で、その財源は一般会計繰入金を充当しています。

飯館村職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正

人事院規則が改正されたことに伴い、1日15分づつ2回あった休息時間を廃

止するとともに、育児または介護を行なう職員の早出・遅出勤務について改正するものです。

飯館村営住宅条例の一部改正

飯館字町502地内の住宅2戸を村営住宅として管理するため、それぞれの条例に追加する改正です。

飯館村奨学金貸付条例の一部改正

県立相模飯館分校支援の一環として、同校生や同校を卒業して進学した者への貸付条件、金額、返還金の一部免除等の改正です。

福島県後期高齢者医療広域連合の設置

高齢者の医療の確保に関する法律に規定する事務の一部を処理するため、広域連合を設置することについて、議会の議決を求めるところです。

福島県市町村総合事務組合を組織する団体数の増減及び規約の変更について

追加議案

平成18年度 一般会計補正予算

既定予算の総額に5552万円を追加し、歳入歳出予算の総額を37億1454万円としました。

主な歳出は、農業施設災害復旧費5121万6000円、公共土木施設災害復旧費430万円で、これを賄う財源として国・県支出金、村債を充当しています。

議会行政機構調査特別委員会へ負託

飯館村課設置条例の一部改正

第5次総合振興計画の推進と簡素で効率的な行政執行のため、課の統合と合わせて課名を変更するものです。

村長村政報告

村全体の投票率は67.03%。県内順位は32位で率・順位とも前回を上回り安堵しています。今後とも投票率の向上に努めます。

立村50周年記念祭

記念すべき飯館村誕生50周年に当たり、「飯館村立村50周年記念祭」を、29日の前夜祭を含め9月30日にセンター地区野球場で、盛大に開催されました。参加者は、関係者も含めて2500人を超えていたものと思っています。

この記念祭は、「いいたて村づくり推進協議会」をもとに、関係団体等で「立村50周年記念祭実行委員会」を立ち上げ、多くの村民に関わっていただき準備を進めました。当日は太陽が照りつける絶好の祭典日和となり、まさに天も飯館

村の前途を祝福しているようでした。



▲野球場で開催された記念祭



▲フィナーレの様子

記念祭は、小・中学生や各団体による愛のステージ、行政区対抗イベント、模擬店コーナー、ふるさと自慢コーナー、木工体験教

室など全て村民参画による手づくりの祭典であり、味わいのある趣向でした。

セレモニーでは、村の50年間の10大ニュースの発表と表彰、庭に植えた花木の発表と表彰を行いました。

さらに、「映像で綴る村の50年の歩み」と題したビデオ上映に、涙して当時を振り返る年配者、歴史の重みを感じとる若者など、映像にくぎづけになったあの眼差しが今でも鮮明に脳裏に焼きついていきます。思い出に残る貴重な財産を作っていたいただいた関係者に敬意を表します。

また、過去を振り返るだけではなく、未来志向の記念祭として、中学生に夢と希望を語っていただいた演出も素晴らしかったと思います。

この記念祭に関わられた実行委員会はもちろんのこと、多くの関係機関・団体及び参加協力者の皆様方に対して、厚く御礼を申し上げます。

いいたて秋まつり

10月28日・29日の2日間、村公民館やJAそうま飯館集出荷場などを会場に開催しました。恒例の「収穫感謝祭」、「総合文化展」、「JAまつり」、「商工まつり」などに、今年「あぶくま高原そばフェスタ」、「イータペイクじゃがいもフェスタ」、NPO法人による「子どもフェスタ」などが加わり、訪れた多くの村民は秋まつりを満喫していたようです。

総合文化展には877人の村民の方に、昨年より83点多い1479点の作品を出品していただきました。出展された作品は年々素晴らしくなってきたと感じました。期間中、約1700人もの方に来場いただき、盛んな文化展となりました。

機構改革

第5次総合計画の推進と自立計画で述べている「簡

素で効率的な行政組織・機構」を構築するため、庁内に設置した「機構改革検討委員会」において、10回程検討し、行政機構改革に関する提言を受け、それを庁議で検討し、11月14日に「飯館村機構改革審議会」へ村としての方針を諮問しました。

機構改革審議会において、3回にわたり審議を重ねられ、11月30日に諮問の原案を了とする答申を受けるところです。

米の集荷状況

18年産米の11月15日現在の集荷状況は、予約数量3万7713俵に対し3万7611俵で、81・6%の集荷率となっています。このうち、ウルチ米は1万8523俵で予約数量に対し78・6%の集荷率です。

一方、モチ米は1万2238俵で予約数量に対し86・5%の集荷率となっています。検査等級については、ウ

ルチ米の1等米比率は19%で、規格外米が13・4%。モチ米については、1等米比率はゼロで、規格外米は全体の48%にのぼっており、大幅な品質低下となっています。この要因は、昨年引き続き「カメ虫」によるものが多く、次いで「穂イモチ病」などによる未熟粒などです。

集落営農

現在まで3回にわたる地区説明会とセミナー等の勉強会を開催し、制度の周知、情報提供、意識啓発に向けた取り組みを終え、現在は各行政区とも組織の立ち上げに向け、取り組みを強化しているところです。

既に、集落営農組織としては「集落ぐるみ型」として小宮をはじめ、モデル地区の前田及び伊丹沢が設立。さらに前田・八和木については、認定農業者5人を核とした「前田・八和木認定農業者連絡協議会」を設立されました。

なお、12月中には村全体で6集落の集落営農組織の立ち上げを目指し、各地区でそれぞれ協議を重ねるところです。

農地・水・環境保全向上対策

現在、各行政区にて実施区域の図面作成をしていただいています。この図面作成は、水田と畑を一筆ごとに確認し、現況を把握するとともに今後5カ年間をどのように利用をするのか、集落ごとに確認し実施区域を設定するものです。

今後は、それぞれの組合で作成した図面を使い、5カ年間の活動計画を作り、19年4月までに村と組合の間で協定を締結することとなります。

なお、要望地区（全行政区）に対する県の採択については、今後19年度予算要求に対する財政部局との協議結果を受け発表する旨の説明を受けていますが、村としては採択の結果を受け

てからでは事務的に手続きが間に合わなくなりますが、要望している全行政区が該当するものとして、今から諸準備を進めています。

いいたて俳句ウォーク



▲石碑を揭幕する黛さん、わたせさん

10月1日に「村民の森あいの沢」で、愛の俳句の選者である黛まどか氏を講師に迎えて開催しました。当日は県内外から100人を超える俳句愛好者の参加があり、園内を散策しながら思い思いの俳句を詠み、交流を深め合ったところです。

かやぶきコンサート

10月9日「民家園ふるさと」で開催しました。この事業は、民家園の茅屋根が

改修されたのを機に、民家園を交流の場に活用しようと村グリーンツーリズム研究会が主催したものです。当日は約80人の参加があり、出演者である沖縄出身の「オレンジクロバー」とゲスト出演した「しまだあや」さんが沖縄音楽を披露すると、観客は熱心に聞き入っていました。



▲沖縄音楽を披露するオレンジクロバー

うつくしま宝自慢事業

この事業は本村にある資源を観光の宝として誘客促進を図り、地域間交流を活発にしようと、県観光連盟の支援を受けて実施するものです。事業実施に当たっては、旅行取扱業者に旅行

企画を提案し、業者側から商品化したという意思表示があつた場合、村と業者が委託契約を取り交わすというもので、村としては初めて取り組む事業です。

第1陣として10月28日・29日の2日間、農協観光の主催により首都圏から15人のバスツアーを受け入れました。野菜収穫体験や農家レストランでの昼食、「あいの沢」での俳句づくり、村の秋まつり見学など盛りだくさんのプログラムに参加者は満足していたようです。

今回はモニターツアーとの段階ですが、本村にも磨けば宝となる観光資源がたくさんあることを再認識したところです。

今年度は残り3回のツアーを受け入れることになっていますが、参加者のアンケート集約などを行いながら、今後の観光交流事業につながるよう取り組んでいきたいと考えています。

農家民宿

11月3日、本村に初めての農家民宿が開業しました。農業そのものが観光資源として改めて見直されている今、まさに時機を得た取り組みと大いに評価しているところです。

ごみ処

4月から小片紙等紙類の養成講座を実施してきましたが、11月末現在で625人が認定され、資源回収を実施しています。

また、生ごみの水切り・良質堆肥醸成のため「生ごみ保管排出容器」の普及を図っていますが、同期末で450個の普及となっています。

交通事故防止運動

9月議会での「飲酒運転の撲滅」に関する決議を受け、啓発活動を強化していきます。飲酒運転は地域・家庭での意識付けが大切であることから、全家庭、全行

路線バス

11月25日に福島交通㈱から連絡があり、13年10月より実施していた営業割引運賃を、12月15日から通常運賃にする連絡がありました。原油高による燃料費の高騰から割引継続ができないとの判断になったようです。これにより、高額運賃上限800円を越える区間の運賃が最大1480円となります。

なお、川俣飯桶線については、高額運賃上限制がありませんので、現状どおりとなります。

敬老会

9月18日の敬老の日に開催し、74歳以上の1067人を招待したところ、約40%にあたる425人の方が出席されました。今年度は立村50周年記念事業の一環として、例年行われていた婦人会の皆さんの演芸ショーに加え、演歌歌手の紅晴美さんを招き、歌謡ショーを開催しました。

敬老会は14年度に招待者年齢を70歳から75歳に引き上げ、経過措置として毎年1年づつ段階的に招待者を繰り上げてきましたが、今年度で経過措置も終了しましたので、来年度からは正式に75歳以上の方が招待者になります。

70歳到達同級会

11月11日に「きこり」を会場に開催しました。対象となる92人の方に案内したところ、約72%にあたる66人の方が出席され、懇親パーティーなど大変和やかに、盛大に行なわれました。

この70歳到達同級会も敬老会の経過措置として実施してきたものであり、村主催としては今年度で終了となります。しかし、今後とも70歳到達者が自主的に開催する場合は、村として予算以外のところは応援していきたいと思っております。



▲旧交を温めた同級会

大雨災害

10月上旬の低気圧による大雨により、県道原町川俣線八木沢峠地内において、法面崩落等が発生し、全面通行止めとなっていました。が、県の片側1車線の仮復旧工事により、11月6日に通行止めが解除され、片側

通行が可能となりました。今後は、早期に全面復旧されるよう県に要望を行ってまいります。

までのい共育推進会議

教育委員の3人体制移行に伴い、さらなる民意反映の場として準備を進めていました「飯館村までのい共育推進会議」については、10月17日に10人の委員による第1回会議を開催し、本村教育の現状認識を深めていただき、今後の本村ならではの特色ある教育行政を推進するため、学校教育・社会教育のあり方等についてご意見をいただくことになりました。

教育懇談会

小学校区ごとに「教育懇談会」を開催しました。各会場とも出席者は少なかつたものの、予定時間をオーバーする状況で、学力や問題行動等の現状を認識していただき、親や地域として何をしなければならぬか

意見交換をさせていただきました。

いいたてっ子夢づくり推進大会

12月3日に、文部科学省の委嘱を受けて飯館村生徒指導総合連携推進委員会による「いいたてっ子夢づくり推進大会」を開催しました。大会では、多くの村民の出席のもと子どもたちから募集した「夢作文コンクール」入選者の表彰や人気音楽グループ「阿呆鳥」による記念コンサートを開催しました。子どもたちが「夢」をもって生活すれば問題行動や非行の減少にもつながることを確信し、地域を挙げて子どもたちの夢づくりを応援していくことを確認しました。

相農飯館分校

相農飯館分校の活性化方策については、同窓会やPTAなど関係者のご意見を伺いながら応援隊の募集を開始したところです。

ふくしま駅伝

白河市から福島市までの96・2キロ、16区間を1本のタスキでつなぐ、「第18回ふくしま駅伝」が11月19日に行われました。飯館村チームは前半の部優勝、総合15位、村の部準優勝という成績を収め、今年も多くの村民に感動を与えていただきました。

大会当日まで物心両面にわたりご支援とご指導・ご協力をいただいた多くの村民の皆様方と、チーム一丸となって走破してくれた選手団に感謝しています。



▲村の部2位と健闘した飯館村チーム